

Q：鉛筆の持ち方がなかなか定着しません。どうしたら、上手に持って書けるようになるのでしょうか。

A：鉛筆を正しく持つことは、美しい文字を書くことばかりでなく、速く書くこと、そして疲れずにたくさん書き続けられることにもつながります。学習指導要領解説国語編では、第1学年及び第2学年の「書写に関する事項」に

「持ち方を正しく」するためには、人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にすることが必要である。

と示されています。習慣が定着しやすい低学年（1・2年生）の段階で特に徹底的に指導し、確実に身に付けさせることが効果的です。

アドバイス：

①正しい持ち方を体得させましょう

見本を見せたり、写真や絵を使ったりして正しい持ち方を会得させます。同時に机や椅子への正しい座り方、書くときの姿勢も教えるとよいでしょう。少し時間がかかりますが、初めは教師が一人一人を確認し、持ち方や持つ位置などを正しく修正してあげましょう。

②特別な鉛筆や器具なども使ってみましょう

断面が三角形の鉛筆は持ちやすいという利点があります。

また、正しい位置や場所に指を置くための器具の使用も効果的です。鉛筆に差し込んで使うことができるので、便利です。（右利き用、左利き用両方あります）

③やわらかい芯の鉛筆を使うように指導しましょう

芯のかたい鉛筆を使うと、指に余計な負担がかかり、小さな手で力の弱い低学年の児童には向きません。芯のやわらかい鉛筆を使いましょう。また、普通のサイズより太い鉛筆や、消しゴムのついた鉛筆、デザイン性を追求した形状が一般的でない鉛筆もこの時期には避ける方がよいでしょう。シャープペンの使用は止めさせます。

④どの場面でも正しく持つ意識を持たせましょう

国語の授業以外にも鉛筆を持つ機会は非常に多くあります。授業内容を問わず、常に学級全体に声かけをしたり、正しく持っている子を称賛して意識を高めたりするなど、鉛筆を正しく持とうとする意欲を喚起していきましょう。正しい持ち方の絵や写真を、教室の前面に掲示しておくことも効果的です。

また、せっかく学校で正しく持っていて、家庭で徹底されていなければ効果は半減してしまいます。家庭に協力を依頼し、常に正しく持たせることで確実な定着を図っていきましょう。

※ 低学年で体得させてしまうことが何と云っても一番です。しかし、長時間書き続けたり長文を書く機会が増える高学年では、間違った持ち方による指の疲労感を感じたり鉛筆だこができたりすると、自覚的に正しく持とうとしたり、直そうとしたりする子が出てきます。一度ついてしまった癖を直すのには時間がかかりますが、学級全体に正しく持とうとする雰囲気が醸成されるとより効果的ですから、粘り強く指導していきましょう。